２０２５年度

教　育　要　項

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校

目　次

保健体育 1

外国語（英語） 2

造形美術概論 3

歯科技工コミュニケーション学 4

国際歯科技工学 5

関係法規 6

歯科技工学概論 7

歯科技工学特論 8

口腔・顎顔面解剖学 9

歯形彫刻基礎実習 10

歯形彫刻応用実習 11

顎口腔機能学 12

顎口腔機能学実習 13

歯科理工学 14

顎口腔病因病態機能学 15

有床義歯技工学 16

有床義歯技工学基礎実習 17
全部床義歯技工学基礎実習

有床義歯技工学基礎実習 18
部分床義歯技工学基礎実習

有床義歯技工学応用実習 19
金属床義歯技工学実習

有床義歯技工学応用実習 20
全部床義歯技工学実習応用

歯冠修復技工学 21

歯冠修復技工学基礎実習 22
歯冠修復技工学基礎実習

審美歯冠修復技工学基礎実習 23
レジン前装冠実習

審美歯冠修復技工学基礎実習 24
陶材焼付鋳造冠基礎実習

審美歯冠修復技工学応用実習 25
陶材焼付鋳造冠応用実習

小児歯科技工学 26

小児歯科技工学実習 27

矯正歯科技工学 28

矯正歯科技工学実習 29

歯科技工包括臨床実習 30

顎顔面再建工学 31

オーラルアプライアンス歯科技工学 32

デジタル歯科技工学 33

デジタル歯科技工学実習 34

インプラント歯科技工学 35

教育内容 ： 基礎分野	**授業科目名** ：保健体育	**授業内容** ： 保健体育
授業方法 ： 実 習	**担当教員** ： 脇本 菜々子	
授業時期 ： 前 期	**年 次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

警察庁勤務経験による各種競技知識と体力向上の指導

主な授業場所

テニスコート、体育館、フタバボウル関大前店

授業の目的および概要

生涯にわたり医療人の一員として健康的な生活を営むことの重要性を理解し、
自己の状況に応じた体力の向上および健康の保持増進を図ることができるようになるために、
各種運動・競技の特性や実践に関する知識、運動技能、および主体的に取り組む態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 各種運動・競技の特性や実践方法を説明できる
2. 各種運動・競技を正しく安全に実施できる
3. 積極的に運動・競技に参加できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1～4	実 技	1	体 育	縄跳び、ソフトバレーボール	脇本 菜々子
5～8	実 技	1	体 育	縄跳び、卓球、テニス	脇本 菜々子
9～12	実 技	1	体 育	縄跳び、バスケットボール	脇本 菜々子
13～14	実 技	1	体 育	縄跳び、バドミントン	脇本 菜々子
15	実 技	1	体 育	ボウリング	脇本 菜々子
16～19	実 技	2	体 育	縄跳び、ソフトバレーボール	脇本 菜々子
20～23	実 技	2	体 育	縄跳び、卓球、テニス	脇本 菜々子
24～27	実 技	2	体 育	縄跳び、バスケットボール	脇本 菜々子
28～29	実 技	2	体 育	縄跳び、バドミントン	脇本 菜々子
30	実 技	2	体 育	ボウリング	脇本 菜々子

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1	形成的評価	知能	実技中	口頭試問
2	2	形成的評価	技能	実技中	観察記録
3	2	総括的評価	技能	実技中	実地試験
4	2・3	総括的評価	技能、態度・習慣	実技中	観察記録

実技試験と出講数および授業（実技）態度が評価の対象となる。
複数回の無断欠席・遅刻・早退があるものは、単位認定を行わない場合もある。

教科書・教材

運動着、運動靴、体育館用シューズ、縄跳び

注意事項

原則的に1・2年合同で行う。授業開始前に学年担任もしくは体育委員からの指示に従うこと。

教育内容 ： 基礎分野	**授業科目名** ：外国語（英語）	**授業内容** ： 歯科英語
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 貞松　寛観	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 2

実務経験

歯科技工士の資格を持ち、歯科技工製品、医療用具の製造・販売会社での勤務経験を活かし、本校で非常勤講師としての講義を行っている。

主な授業場所

第一講義室

授業の目的および概要

歯科専門用語の英語での表記を理解し、
国際的な歯科技工士になることができるようになるため、
これまで学習してきた基礎英語の知識に加え歯科英語に関する基礎的な知識、態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 基礎的な歯科用語を英語で記述できる
2. 歯科技工英語を作文できる
3. 歯科技工に関する英会話ができる
4. 歯科に関する文献等の内容を判断できる
5. 積極的に講義に参加できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～4	講　義	1	英語の基本	基礎歯科英語	貞松　寛観
5～10	講　義	1	歯科関連英語	Zirconia crowns ・AestheticRPD	貞松　寛観
11～14	講　義	1	歯科技工英語	Dental Implant&IOD ・Clear Aligner	貞松　寛観
15～17	講　義	1	歯科英語文献	CADCAM dentistry・future of digital dentistry	貞松　寛観
18～20	講　義	1	歯科関連英会話	歯科医療における英会話	貞松　寛観

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	3	総括的評価	知識	講義中	口頭試験
2	4	形成的評価	知識	講義中	論述試験
3	5	形成的評価	態度	講義中	観察記録
4	1・2・4	総括的評価	知識	講義終了後	実地試験

教科書・教材

歯科技工士のための図解歯科英語、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 基礎分野	**授業科目名** ：造形美術概論	**授業内容** ： 造形美術概論
授業方法 ： 講　義・実　習	**担当教員** ： 嶋本　佳代子	
授業時期 ： 前期・後期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一講義室および第一実習室

授業の目的および概要

歯科における形態美、機能美および色彩美を理解し、
歯科技工に必要な美的感覚を身につけるために、
造形美術に関する知識、技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯科技工における造形美術の重要性を理解し、説明できる
2. 色彩についての理論を理解し、説明できる
3. 思い描いた形態を具現化できる
4. 積極的に実習に取り組むことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	1	概　論	道具の取り扱い、作業方法	嶋本　佳代子
3～4	実　習	1	彫刻の方法	展開図、球体の製作	嶋本　佳代子
5～6	講　義	1	概　論	美と調和について	嶋本　佳代子
7～8	実　習	1	彫　造	任意の模型の模刻（荒彫り）	嶋本　佳代子
9～10	実　習	1	彫　造	任意の模型の模刻（荒彫り）	嶋本　佳代子
11～12	実　習	1	彫　造	任意の模型の模刻（中彫り）	嶋本　佳代子
13～14	実　習	1	彫　造	任意の模型の模刻（中彫り）	嶋本　佳代子
15～16	実　習	1	彩　色	任意の模型の彩色（仕上げ）	嶋本　佳代子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1・2	総括的評価	知識	講義中	口頭試験
2	3	形成的評価	技能	実習中	作品評価
3	4	形成的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 基礎分野	**授業科目名** ：歯科技工コミュニケーション学	**授業内容** ： コミュニケーションリテラシー
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 嶋本佳代子、山下茂子	
授業時期 ： 前　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

求められる人材について理解し、
就職活動および社会人としての仕事を的確におこなうことができるように、
必要な基本的マナーの知識、態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 求人票の記載内容、履歴書の書き方を具体的に述べることができる
2. 面接における返答の仕方、服装に関する注意点を説明できる
3. 労働基準法による労働契約とその確認点を説明する
4. 就職後の新人としての仕事の取り組み方を説明する
5. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	2	コミュニケーション	コミュニケーションの概要	山下 茂子
3～4	講　義	2	情報リテラシー	情報リテラシー	嶋本 佳代子
5～6	講　義	2	就活方法	雇用に関する具備すべき要点	嶋本 佳代子
7～8	講　義	2	就活活動の進め方	会社訪問に際しての注意事項	嶋本 佳代子
9～10	講　義	2	コミュニケーション	コミュニケーションの種類による対応	山下 茂子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～4	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	5	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 基礎分野	**授業科目名** ：国際歯科技工学　※選択科目	**授業内容** ： 海外研修
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 嶋本佳代子	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

未定

授業の目的および概要

歯科医療における近隣国の状況を理解し、
歯科技工のグローバル化に対応できるように、
歯科技工に関する知識、態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 現在の歯科医療の状況を認識できる
2. 学術発表内容に関心を示すことができる
3. 学術大会でコミュニケーションをとることができる
4. 学術開催地に対する関心を示すことができる
5. 旅程に沿って適切な行動をとることができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	実　技	2	海外研修	海外諸国の言語、生活習慣を理解する	嶋本　佳代子
3～4	実　技	2	海外研修	最新の歯科医療を認識する	嶋本　佳代子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1・2	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	4	総括的評価	態度・習慣	研修終了後	感想文
3	3・5	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録

教科書・教材

注意事項

現地参加不可の場合は、学内で歯科技工実習を受講する。

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：関係法規	**授業内容** ： 歯科技工関係法規
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 嶋本佳代子	
授業時期 ： 前　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

歯科技工士として必要な法律を理解し、
医療従事者としての遵法精神を身につけるために、
歯科技工士関係法規の知識を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 法律の概要を理解し、衛生行政の意義、組織および活動を説明できる
2. 歯科技工士法の法的定義と目的を説明できる
3. 歯科医療関連法規を列挙できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	2	法と衛生行政	法の概念、衛生行政の意義	嶋本佳代子
2	講　義	2	法と衛生行政	衛生行政の組織、財政、活動	嶋本佳代子
3	講　義	2	歯科技工士法	総説、歯科技工士試験	嶋本佳代子
4	講　義	2	歯科技工士法	歯科技工士免許	嶋本佳代子
5	講　義	2	歯科技工士法	歯科技工士業務	嶋本佳代子
6	講　義	2	歯科技工士法	歯科技工所	嶋本佳代子
7	講　義	2	医療関係者法	医師、歯科医師法、歯科衛生士法	嶋本佳代子
8	講　義	2	医療衛生関係法	医療法、薬事/予防衛生法規	嶋本佳代子
9	講　義	2	医療衛生関係法	保健衛生法規(老人保健法)	嶋本佳代子
10	講　義	2	医療衛生関係法	健康保健法、その他	嶋本佳代子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	2	形成的評価	知識	講義中	筆頭試験
2	1･2･3	総括的評価	知識	講義終了後	筆頭試験

教科書･教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：歯科技工学概論	**授業内容** ： 歯科技工学概論
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 嶋本佳代子	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一講義室・第二講義室

授業の目的および概要

歯科医療に対する歯科技工の役割、重要性を理解し、
歯科技工学の適正な学習を行うことができるようになるために、
歯科技工を取り巻く必要な基礎項目を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯科医療における歯科技工士の役割を説明できる
2. 口腔領域組織における形態、機能および変化について説明できる
3. 歯科技工の管理、運営について説明できる
4. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	歯科技工管理	情報リテラシー	嶋本佳代子
2	講　義	1	歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療	嶋本佳代子
3	講　義	1	歯科医療と歯科技工	歯科医療の目的	嶋本佳代子
4	講　義	1	歯科技工の役割	歯科医療の倫理	嶋本佳代子
5	講　義	1	歯科技工の役割	歯科技工の沿革	嶋本佳代子
6	講　義	2	歯科医療機関	各歯科医療機関の役割	嶋本佳代子
7	講　義	2	医療職と技術職	歯科技工士の役割	嶋本佳代子
8	講　義	2	運営と管理	歯科技工業務の運営と管理	嶋本佳代子
9	講　義	2	健康管理	歯科技工士の健康管理	嶋本佳代子
10	講　義	2	歯科技工士の現状	日本国内の歯科技工士の現状	嶋本佳代子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	4	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：歯科技工学特論	**授業内容** ： 歯科技工学特論
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 荘司　哲也、山田　和伸、松尾　洋祐	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科医師又は歯科技工士としての勤務（臨床）経験と、本校非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

歯科技工士を取り巻く現状を理解し、
医療の一員として正しく行動できるようになるために、
歯科技工を取り巻く様々な問題点に対応できる能力を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 日本国内における歯科技工士の現状を外国と比較して説明できる
2. 現在の歯科技工士に求められる事柄を説明できる
3. 技術を向上、吸収するための要件を説明できる
4. 自然界の法則に沿った歯の形態を説明できる
5. 最新のデジタル歯科技工を説明できる
6. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	2	天然歯の歯牙形態	自然界の法則に沿った歯の形態	荘司 哲也
3～4	講　義	2	歯のデッサン	歯の模刻の観察方法	荘司 哲也
5～6	講　義	2	歯形彫刻	歯形彫刻の実践	荘司 哲也
7～8	講　義	2	海外の歯科技工	国内外の歯科技工士の現状	山田　和伸
9～10	講　義	2	デジタル歯科技工	デジタル歯科技工の近未来像	松尾　洋祐

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～5	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	6	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：口腔･顎顔面解剖学	**授業内容** ： 歯の解剖学･顎顔面構造解剖学
授業方法 ： 講　義･演　習	**担当教員** ： 大庭　伸介･前田　隆史･阿部　真土･佐藤　文彦･孫　在隣	
授業時期 ： 前　期･後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 2

実務経験

歯学研究科で本務教員としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一講義室、歯学部解剖実習室

授業の目的および概要

歯冠の修復を適切に行うために重要である歯の形態と機能、口腔および隣接臓器について理解するとともに、
歯科材料を用いて歯の形態を正確に再現できるようになるために、
歯の解剖学に関する知識、技能、および態度･習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯の定義および歯に関する基本的用語について説明できる
2. 永久歯および乳歯の形態的特徴と機能について説明できる
3. 歯列と咬合関係について説明できる
4. 歯の発生および歯の組織構造について説明できる
5. 頭蓋、顎関節、口腔周囲筋および歯周組織の構造と機能を説明できる
6. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	1	歯の解剖総論	歯の定義･生物学的特性･形態	大庭　伸介
3～4	講　義	1	歯の解剖総論	歯の種類･名称･鑑別	大庭　伸介
5～6	講　義	1	歯の解剖各論	前　歯	阿部　真士
7～8	講　義	1	歯の解剖各論	小臼歯	阿部　真士
9～10	講　義	1	歯の解剖各論	大臼歯	阿部　真士
11～12	講　義	1	歯の解剖各論	大臼歯	阿部　真士
13～14	講　義	1	歯の解剖各論	歯列･咬合	前田　隆史
15～16	講　義	1	歯の解剖各論	乳　歯	前田　隆史
17～18	講　義	1	口腔解剖学	口腔･顎関節	前田　隆史
19～20	講　義	1	口腔解剖学	骨･筋	佐藤　文彦･孫　在隣
21～22	講　義	1	歯の発生	歯冠の発生、歯根の形成	前田　隆史
23～24	講　義	1	歯の組織	歯の組織、歯周組織	前田　隆史
25～26	実　習	1	屍体解剖	屍体解剖の見学	佐藤　文彦･孫　在隣

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～5	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	2	形成的評価	知識	講義中	プレテスト
3	6	総括的評価	態度･習慣	講義終了後	感想文

教科書･教材

最新歯科技工士教本 口腔･顎顔面解剖学

注意事項

屍体解剖については、絶対に他言しないように注意する。

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：歯形彫刻基礎実習	**授業内容** ： 歯形彫刻基礎実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 小八木　圭以子、後藤　哲史	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 2

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

歯の基本的形態の特徴を理解し、
彫刻のための道具を適切に使用し、
彫刻の基本的な技能、および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 永久歯および乳歯の形態的特徴を説明できる
2. 永久歯の模型から展開図の製作を実施できる
3. 石膏棒を用いて歯型彫刻を実施できる
4. 積極的に実習に取り組むことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	実　習	1	歯形彫刻	展開図作成、4倍大歯形彫刻基礎	小八木　圭以子
3～7	実　習	1	歯形彫刻	展開図作成、4倍大彫刻・上下顎前歯	小八木　圭以子
8～11	実　習	1	歯形彫刻	展開図作成、4倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	小八木　圭以子
12～16	実　習	1	歯形彫刻	展開図作成、4倍大彫刻・上下顎小臼歯	小八木　圭以子
16～20	実　習	1	歯形彫刻	展開図作成、4倍大彫刻・上下顎第二大臼歯	小八木　圭以子
21	実　習	1	歯形彫刻	4倍大彫刻・小テスト	小八木　圭以子
22～25	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎前歯	後藤　哲史
26～28	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎小臼歯	後藤　哲史
29～33	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎大臼歯	後藤　哲史
34	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・小テスト	後藤　哲史
35～36	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎中切歯	後藤　哲史
37～38	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎側切歯	後藤　哲史
39～40	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎犬歯	後藤　哲史
41～42	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一小臼歯	後藤　哲史
43～44	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二小臼歯	後藤　哲史
45～46	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	後藤　哲史
47～48	実　習	1	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二大臼歯	後藤　哲史

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1	総括的評価	知識	実習終了後	筆答試験
2	2～4	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録
3	2～4	総括的評価	技能、態度・習慣	実習中	実地試験

授業の課題を指定の日時に提出すること。未提出、無断欠席は単位を認定しない場合もある。

教科書・教材

歯科技工実習トレーニング　歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻、配付プリント

注意事項

教員指示の石膏棒もしくは石膏柱は事前に準備しておくこと。

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：歯形彫刻応用実習	**授業内容** ： 歯形彫刻応用実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 小八木　圭以子、後藤　哲史	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 2

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

天然歯における形態および表徴を理解し、
天然歯の観察力を養うことによって、
歯科技工における表現力、および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 天然歯の細かな特徴を捉えることができる
2. 石膏を用いて天然歯を表現することができる
3. 積極的に実習に取り組むことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎中切歯	小八木　圭以子
3～4	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎側切歯	小八木　圭以子
5～6	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎犬歯	小八木　圭以子
7～8	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一小臼歯	小八木　圭以子
9～10	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二小臼歯	小八木　圭以子
11～12	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	小八木　圭以子
13～14	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二大臼歯	小八木　圭以子
15～16	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上顎中切歯、上顎犬歯	小八木　圭以子
17～18	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	小八木　圭以子
19～20	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・実技テスト	小八木　圭以子
1～2	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎中切歯	後藤　哲史
3～4	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎側切歯	後藤　哲史
5～6	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎犬歯	後藤　哲史
7～8	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一小臼歯	後藤　哲史
9～10	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二小臼歯	後藤　哲史
11～12	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	後藤　哲史
13～14	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第二大臼歯	後藤　哲史
15～16	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上顎中切歯、上顎犬歯	後藤　哲史
17～18	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・上下顎第一大臼歯	後藤　哲史
19～20	実　習	2	歯形彫刻	1.5倍大彫刻・実技テスト	後藤　哲史

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録
2	1～3	総括的評価	技能、態度・習慣	実習中	実地試験

授業の課題を指定の日時に提出すること。未提出、無断欠席は単位を認定しない場合もある。

教科書・教材

歯科技工実習トレーニング　歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻、配付プリント

注意事項

教員指示の石膏棒もしくは石膏柱は事前に準備しておくこと。

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：顎口腔機能学	**授業内容** ： 顎口腔機能学
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 若林　一道	
授業時期 ： 前　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

顎口腔系の形態や機能、顎運動および咬合関係を理解し、
顎口腔機能に調和した歯科技工物を製作できるようになるために、
顎口腔機能学に関する知識および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 顎口腔系の形態および機能について説明できる
2. 下顎位および下顎運動について説明できる
3. 歯の接触様式について説明できる
4. 咬合器の機構や分類、使用目的、および使用方法について説明できる
5. 咬合検査および顎機能障害について説明できる
6. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	2	顎口腔系の形態	顎口腔系の構成要素とその特徴	若林　一道
3～4	講　義	2	顎口腔系の機能	基準点・基準面・咬合に関する平面	若林　一道
5	講　義	2	下顎位	各下顎位の提議	若林　一道
6～7	講　義	2	下顎運動	下顎運動の種類、特徴およびメカニズム	若林　一道
8～9	講　義	2	歯の接触様式	偏心位における咬合接触	若林　一道
10～11	講　義	2	咬合器	咬合器の使用目的、種類および調節方法	若林　一道
12	講　義	2	咬合検査と顎機能障害	咬合検査の目的、種類および特徴	若林　一道

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	2～5	形成的評価	知識	講義中	口頭試問
2	1～5	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
3	6	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 顎口腔機能学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：顎口腔機能学実習	**授業内容** ： 顎口腔機能学実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 町　博之、若林　一道	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士の実務経験及び本校専任講師の教育経験、または、歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第二講義室、第二実習室

授業の目的および概要

顎運動における咬合関係を理解し、デジタルならびにアナログによる咬合面形態の回復や偏心位における各咬合様式を付与できるようになるために顎口腔機能学に関する技能および態度・習慣を習得する。

学習目標（SBOs）

1. コンピュータシュミレートを用いて、実際の顎運動および咬合関係を判断できる
2. 機能的咬合面の製作に関する基本的操作ができる
3. 咬合様式の違いをワックスアップで表現できる
4. 治療装置の違いを説明できる
5. 積極的に実習に参加できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	実　習	2	模型製作	貼付け式模型台を利用した作業模型の製作	若林　一道
3～4	実　習	2	CAD実習	模型のスキャニング、CAD冠のデザイン	若林　一道
5～8	実　習	2	顎運動計測	デジタル機器による顔面計測	若林　一道
9～11	実　習	2	模型の製作	マウント含む模型の準備	町　博之
12～16	実　習	2	蝋形成（盛上げ法）	ワックスコーンテクニックによる咬合面形成	町　博之
17～20	実　習	2	スプリント製作	オクルーザルスプリントのワックスアップ	町　博之

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1	形成的評価	知識	実習中	口頭試問
2	2・3	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録
3	2・3	総括的評価	技能、態度・習慣	実習終了後	実地試験

教科書・教材

最新歯科技工士教本 顎口腔機能学、配布プリント

注意事項

教育内容 ： 専門基礎分野	**授業科目名** ：歯科理工学	**授業内容** ： 歯科理工学・歯科理工学実験
授業方法 ： 講　義・実　習	**担当教員** ： 今里　聡、山口　哲、佐々木　淳一、北川　晴朗、嶋本　佳代子、町　博之	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 8

実務経験

歯科技工士の勤務経験と本校の専任講師、または、歯学研究科の本務教員としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一講義室、第一実習室、理工学教室実験室

授業の目的および概要

顎口腔顔面領域の形態と機能の回復に用いられる歯科材料の特性と成型方法を理解するとともに、
臨床の種々の場面において適切な材料・器械を選択できるようになるために、
歯科理工学に関する知識、技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯科医療における歯科理工学の役割を説明できる
2. 高分子、セラミックス、金属ならびにその複合体からなる材料の基本的特性を説明できる
3. 生体材料としての生体適合性、親和性、および安全性を説明できる
4. 歯科材料や器械の正しく安全な取扱い方を説明できる
5. 歯科医療で用いられるコンピュータ技術について説明できる
6. 歯科材料の特性を評価できる
7. 歯科生体材料開発の最新の動向を説明できる
8. 進歩する生体材料、バイオ材料、歯科医療技術について説明できる
9. 積極的に実習に参加することができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～12	講　義	1	予備実習	材料、器具等の扱い方	嶋本佳代子、町　博之
13～14	講　義	1	歯科理工学総論	物質の構造	今里　聡
15～16	講　義	1	材料の性質	機械的性質	山口　哲
17～18	講　義	1	材料の性質	生物学的性質	佐々木　淳一
19～20	講　義	1	材料の性質	物理的性質	山口　哲
21～22	講　義	1	材料の性質	化学的性質	佐々木　淳一
23～26	講　義	1	印象と模型製作	印象材、模型材	北川　晴朗
27～28	講　義	1	原型製作	原型材料	北川　晴朗
29～32	講　義	1	レジン成形	義歯床用関連材料、歯冠用硬質レジン	北川　晴朗
33～36	講　義	1	セラミック成形	歯科用陶材Ⅰ、歯科用陶材Ⅱ	佐々木　淳一
37～46	講　義	1	金属成形	歯科用合金Ⅰ、鋳造Ⅰ、加工と接合，熱処	山口　哲
47～48	講　義	1	その他の歯科材料	合着材・接着材	今里　聡
49～50	講　義	1	その他の歯科材料	インプラント材料	佐々木　淳一
51～52	講　義	1	その他の歯科材料	補綴装置と修復物の仕上げ	佐々木　淳一
53～54	講　義	1	CAD/CAM	CAD/CAMの基礎	山口　哲
55～56	講　義	1	CAD/CAM	CAD/CAMの現状	山口　哲
57～58	講　義	1	その他の歯科材料	補綴装置と修復物の安定性	佐々木　淳一
59～60	講　義	1	その他の歯科材料	抗菌性材料	今里　聡
61～62	講　義	1	その他の歯科材料	バイオメカニクスの最新トピックス	山口　哲
63～64	講　義	1	その他の歯科材料	生体材料・組織工学の最新トピックス	佐々木　淳一
65～66	講　義	1	その他の歯科材料	機能性材料の最新トピックス	北川　晴朗
67～74	実　習	1	歯科材料の特性	実習Ⅰ-1～4	北川　晴朗
75～82	実　習	1	歯科材料の特性	実習Ⅱ-1～4	佐々木　淳一
83～90	実　習	1	歯科材料の特性	実習Ⅲ-1～4	山口　哲

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～5・7・8	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	4	形成的評価	知識	講義中	口頭試問
3	6・9	形成的評価	技能、態度・習慣	講義中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯科理工学、配付プリント

注意事項

実習Ⅰ～Ⅲは歯学部理工学教室の実習室で実習を行うので、教員の指示を確認すること。

教育内容 ： 専門基礎分野	授業科目名 ：顎口腔病因病態機構学	授業内容 ： 顎口腔病因病態機構学
授業方法 ： 講 義	担当教員 ： 久保庭 雅恵、竹内 洋輝、坂中 哲人、岩橋 美咲、原田 計真 田中 信和、柏木 陽一郎、濵田 正和、竹下 彰範、大家 香織、 横田 美保	
授業時期 ： 前 期・後 期	年 次 ： 2年	単 位 数 ： 2

実務経験

歯学研究科・歯学部附属病院の専任教員（歯科医師を含む）または歯科衛生士としての臨床・教育経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

口腔・顎顔面領域の基本的な生理学的機能および疾患の特徴を理解し、
生理学的にバランスのとれた補綴装置の製作について考えることができるようになるために、
口腔・顎顔面領域に関する基礎的病因病態の知識を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 総合的歯科治療の流れを説明できる
2. 構音と総義歯の関係を説明できる
3. 口腔領域における疾患の種類、特徴を説明できる
4. 疾患発症の原因について説明できる
5. 生理学的観点から咬合の重要性を説明できる
6. 補綴物による口腔粘膜疾患を説明できる
7. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	講 義	2	臨床検査	臨床検査とは	大家 香織
2	講 義	2	粘膜疾患	口腔粘膜疾患	大家 香織
3～5	講 義	2	咀嚼、味覚	噛むことと全身の健康	歯学部講師
6	講 義	2	疼 痛	疼痛	岩橋 美咲
7～8	講 義	2	発生とその障害	口腔機能障害	田中 信和
9	講 義	2	口腔衛生	口腔の健康	久保庭 雅恵
10	講 義	2	口腔衛生	歯周病予防	竹内 洋輝
11	講 義	2	口腔衛生	最新予防歯科学	坂中 哲人
12	講 義	2	口腔衛生	予防とは	歯学部講師
13～14	講 義	2	歯周疾患	歯周疾患	柏木 陽一郎
15～16	講 義	2	院内感染	院内感染対策・口腔粘膜病変・抜歯	原田 計真
17～19	講 義	2	口唇口蓋裂	口唇裂口蓋裂・嚢胞性疾患	原田 計真
20～21	講 義	2	外傷、嚢胞	口腔顎顔面外傷・嚢胞性病変	濵田 正和
22～23	講 義	2	腫瘍	腫瘍	竹下 彰範
24～25	講 義	2	歯科衛生学	Dr.Dt.Dhの連携	横田 美保

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1～6	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	7	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

配布プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：有床義歯技工学	**授業内容** ： 有床義歯技工学
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 髙阪　貴之、豆野　智昭、室谷　有紀、東　孝太郎	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 3

実務経験

歯学研究科・歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第一講義室、第二講義室

授業の目的および概要

歯の部分的もしくは全部、さらには顎骨および口腔軟組織の欠損した患者の顎口腔の特徴を理解し、
損なわれた機能と審美を回復する義歯が製作できるようになるために、
全部床義歯、部分床義歯、顎義歯に関する知識および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 日本の高齢者社会の現状について説明できる
2. 咀嚼能力と死亡率の関係を説明できる
3. 欠損補綴物の重要性を説明できる
4. 歯を喪失した患者の顎口腔の形態と機能を説明できる
5. 顎骨、口腔軟組織の欠損の原因を説明できる
6. 全部床義歯の構成要素と種類を理解し、義歯の維持・安定・支持のメカニズムを説明できる
7. 部分的な欠損の分類、およびその治療の目的と意義を説明できる
8. 部分床義歯の構成要素を分類し、その種類、役割および機能を説明できる
9. 顎義歯の構成要素、種類および製作工程を説明できる
10. 全部床義歯の製作順序について説明できる
11. 部分床義歯の製作順序を説明できる
12. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	概　説	有床義歯技工学概説	東　孝太郎
2～3	講　義	1	生体の基礎知識	生体についての基礎知識	東　孝太郎
4～6	講　義	1	全部床義歯の特性	全部床義歯の特性と製作順序	東　孝太郎
7～9	講　義	1	印象・咬合採得に伴う技工	印象・咬合採得にともなう技工操作	東　孝太郎
10～13	講　義	1	人工歯排列、歯肉形成	人工歯排列、歯肉形成	東　孝太郎
14	講　義	1	埋没、重合	埋没と重合	東　孝太郎
15	講　義	1	削合、研磨	咬合器再装着、削合、研磨	東　孝太郎
16	講　義	1	部分床義歯の特性	部分床義歯の意義	室谷　有紀
17	講　義	1	部分床義歯の製作順序	部分床義歯の製作順序	室谷　有紀
18～21	講　義	1	部分床義歯の構成要素	部分床義歯の構成要素	室谷　有紀
22	講　義	1	印象・咬合採得に伴う技工	部分床義歯の印象採得、咬合採得	室谷　有紀
23～25	講　義	1	クラスプ・バー	サベイング、クラスプ・バーについて	室谷　有紀
26	講　義	1	部分床義歯の製作	部分床義歯の人工歯排列・削合および歯肉形成	室谷　有紀
27～28	講　義	1	部分床義歯の製作	部分床義歯の埋没・重合研磨	室谷　有紀
29	講　義	1	義歯の修理	修理、リベース、リライン	室谷　有紀
30	講　義	1	さまざまな義歯	オーバーデンチャー	室谷　有紀
31～32	講　義	2	顎補綴	顎顔面補綴	髙阪　貴之
33～34	講　義	2	高齢者歯科	高齢者歯科学総論・各論	豆野　智昭

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	4～8、10・11	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	1～3、9	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
3	12	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	授業科目名 ：有床義歯技工学基礎実習	授業内容 ： 全部床義歯技工学基礎実習
授業方法 ： 実 習	担当教員 ： 嶋本 佳代子	
授業時期 ： 前 期・後 期	年 次 ： 1年	単 位 数 ： 4

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

歯を喪失した患者の顎口腔の特徴を理解し、
損なわれた機能と審美を回復する義歯が製作できるようになるために、
全部床義歯技工学に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 全部床義歯の製作順序について説明できる
2. 義歯床用レジンの種類や特性を理解し、埋没材料や重合法を選択できる
3. 全部床義歯製作に関する基本的操作を実施できる
4. 模型の取り扱いに配慮できる
5. 実習中の安全衛生に配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	実 習	1	ガイダンス	実習についてのガイダンス	嶋本 佳代子
2～4	実 習	1	概形模型製作	研究用模型の製作	嶋本 佳代子
5～12	実 習	1	個人トレー製作	機能印象法による個人トレー製作	嶋本 佳代子
13～15	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	嶋本 佳代子
16～23	実 習	1	咬合床製作	基礎床および咬合堤の製作	嶋本 佳代子
24～26	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	嶋本 佳代子
27～42	実 習	1	人工歯排列	前歯部排列、臼歯部排列	嶋本 佳代子
43～52	実 習	1	歯肉形成	歯肉形成	嶋本 佳代子
53～58	実 習	1	埋没、重合	上顎/フラスコ埋没、下顎/流し込み法による埋没	嶋本 佳代子
59～60	実 習	1	義歯の取り出し	分割による義歯の取り出し	嶋本 佳代子
61～64	実 習	1	粗研磨	バリの削除および粗研磨	嶋本 佳代子
65～66	実 習	1	咬合器再装着	咬合器への模型再装着	嶋本 佳代子
67～76	実 習	1	削 合	選択削合	嶋本 佳代子
77～80	実 習	1	研 磨	義歯床部の研磨	嶋本 佳代子

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1	形成的評価	知識	実習中	筆答試験
2	2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
3	3	形成的評価	技能	実習中	作品評価
4	4・5	形成的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、歯科技工実習トレーニング　有床義歯技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：有床義歯技工学基礎実習	**授業内容** ： 部分床義歯技工学基礎実習
授業方法 ： 実 習	**担当教員** ： 町 博之	
授業時期 ： 前 期・後 期	**年 次** ： 1年	**単 位 数** ： 4

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

部分的な欠損における口腔内の状況、部分床義歯の構成要素の特性を理解し、
機能的、審美的および形態的に回復した部分床義歯を製作できるようになるために、
部分床義歯の基本的な知識、技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 部分床義歯の設計の原則と方法について説明できる
2. 部分床義歯の製作順序を説明できる
3. 維持装置および連結装置の製作を実施できる
4. 人工歯部および義歯床部の製作を実施できる
5. 技工作業中の安全性に配慮できる
6. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	実 習	1	ガイダンス	実習についてのガイダンス	町 博之
2～4	実 習	1	概形模型製作	研究用模型の製作	町 博之
5～7	実 習	1	サベイング	個人トレー製作のためのサベイング	町 博之
8～12	実 習	1	個人トレー製作	機能印象法による個人トレー製作	町 博之
13～15	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	町 博之
16～17	実 習	1	サベイング	咬合床製作のためのサベイング	町 博之
18～21	実 習	1	咬合床製作	基礎床および咬合堤の製作	町 博之
22～24	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	町 博之
25～28	実 習	1	サベイング	部分床義歯設計のためのサベイング	町 博之
29～43	実 習	1	維持装置製作	維持装置の製作	町 博之
43～49	実 習	1	連結装置製作	連結装置の製作	町 博之
50～55	実 習	1	人工歯排列	人工歯排列	町 博之
56～60	実 習	1	歯肉形成	歯肉形成	町 博之
61～66	実 習	1	埋没、重合	流し込み法による埋没	町 博之
67～68	実 習	1	義歯の取り出し	分割による義歯の取り出し	町 博之
69～74	実 習	1	粗研磨	バリの削除および粗研磨	町 博之
75	実 習	1	咬合器再装着	咬合器への模型再装着	町 博之
76～80	実 習	1	研 磨	義歯床部の研磨	町 博之

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1・2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	3・4	総括的評価	技能	実習終了後	観察記録
3	5・6	形成的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、歯科技工実習トレーニング　有床義歯技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：有床義歯技工学応用実習	**授業内容** ： 金属床義歯技工学実習
授業方法 ： 実 習	**担当教員** ： 町 博之	
授業時期 ： 前 期・後 期	**年 次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

レジン床義歯と金属床義歯の構成要素による相違を理解し、
メタルフレームの設計および製作ができるようになるために、
金属床義歯製作の基本的な知識、技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 金属床義歯の設計の原則と方法について説明できる
2. 金属床義歯の製作順序を説明できる
3. メタルフレームの製作を実施できる
4. 技工作業中の安全性に配慮できる
5. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	実 習	2	作業用模型製作	作業用模型の製作	町 博之
2	実 習	2	咬合床製作	基礎床および咬合堤の製作	町 博之
3	実 習	2	咬合器装着	平均値咬合器への装着	町 博之
4～5	実 習	2	サベイング	金属床歯設計のためのサベイング、設計	町 博之
6～9	実 習	2	耐火模型製作	リリーフ、ブロックアウト、複印象採得、耐火模型製	町 博之
10～15	実 習	2	埋 没	ワックスアップ、スプルーイング、埋没	町 博之
16	実 習	2	鋳 造	鋳造	町 博之
17～20	実 習	2	フレーム研磨	酸化膜除去、適合、研磨	町 博之

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1・2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	3	形成的評価	技能	実習中	作品評価
3	4・5	形成的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、歯科技工実習トレーニング 有床義歯技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：有床義歯技工学応用実習	**授業内容** ： 全部床義歯技工学実習応用
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 嶋本　佳代子	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

全部床義歯の人工歯排列および歯肉形成の作業内容を理解し、
決められた時間内にバランス良く製作できるようになるため、
人工歯排列および歯肉形成の技能向上および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 人工歯排列の時間配分ができる
2. 歯肉形成の時間配分ができる
3. 無駄のない的確な操作ができる
4. 技工作業中の安全性に配慮できる
5. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	実　習	2	作業用模型製作	作業用模型の製作	嶋本　佳代子
2～4	実　習	2	咬合床製作	基礎床および咬合堤の製作	嶋本　佳代子
5～6	実　習	2	咬合器装着	平均値咬合器への装着	嶋本　佳代子
7～10	実　習	2	人工歯排列	人工歯排列	嶋本　佳代子
11～13	実　習	2	歯肉形成	歯肉形成	嶋本　佳代子
14	実　習	2	作業用模型製作	作業用模型の製作	嶋本　佳代子
15～16	実　習	2	咬合床製作	基礎床および咬合堤の製作	嶋本　佳代子
17	実　習	2	咬合器装着	平均値咬合器への装着	嶋本　佳代子
18～20	実　習	2	人工歯排列、歯肉形成	人工歯排列、歯肉形成	嶋本　佳代子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～4	総括的評価	技能	実習終了後	観察記録
2	4・5	形成的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、歯科技工実習トレーニング 有床義歯技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：歯冠修復技工学	**授業内容** ： 歯冠修復技工学
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 若林　一道、高原　悠樹、山田　朋美	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 4

実務経験

歯科技工士の実務経験及び本校専任講師の教育経験、または、歯学研究科・歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第一講義室、第二講義室

授業の目的および概要

齲蝕の治療後、機能および審美の回復に用いられる歯冠補綴装置の種類や特徴を理解し、
口腔内に調和した歯冠補綴装置を製作できるようになるために、
歯冠修復技工学に関する知識および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯冠修復技工学の意義と目的について説明できる
2. 歯の疾患と診査法、さらに齲蝕の病態、分類について説明できる
3. 齲蝕の治療内容について説明できる
4. 歯冠修復法の種類、および技工操作について説明できる
5. クラウンおよびブリッジの種類、特徴および具備要件について説明できる
6. クラウンおよびブリッジの製作順序について説明できる
7. 歯冠補綴装置治療の最新の動向および歯科技工士を取り巻く現状について説明できる
8. 生体に対する修復物の審美的要件を説明できる
9. 審美修復材料について説明できる
10. 歯科用セメントおよび接着材料について説明できる
11. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	歯冠修復技工学の概要	歯冠修復技工学の意義と目的	高原　悠樹
2～4	講　義	1	クラウンの概要と種類	形態による分類とその特徴および適応部位	高原　悠樹
5～7	講　義	1	ブリッジの概要と種類	役割、特徴、構成要素および種類	高原　悠樹
8～13	講　義	1	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞの具備要件	形態的、機能的、材料的、審美的観点からの要件	高原　悠樹
14～19	講　義	1	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞの製作	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞの製作順序	高原　悠樹
20～22	講　義	1	部分被覆冠	部分被覆冠の特徴および適応部	高原　悠樹
23～25	講　義	1	全部被覆冠	各使用材料による特徴および作業時の注意点	高原　悠樹
26	講　義	1	ブリッジ	支台装置・ポンティック・連結	高原　悠樹
27～30	講　義	1	インプラント	インプラントの概要	高原　悠樹
31	講　義	1	CAD/CAMシステム	CAD/CAMシステムの構成	高原　悠樹
32	講　義	2	審美歯科	歯冠修復における審美の基礎知識	若林　一道
33～37	講　義	2	齲　蝕	齲蝕に関する基本的概念	山田　朋美
38～42	講　義	2	修修復材料と修復	各材料における修復方法	山田　朋美

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～7	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	8～10	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
3	11	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：歯冠修復技工学基礎実習	**授業内容** ： 歯冠修復技工学基礎実習
授業方法 ： 実 習	**担当教員** ： 町 博之、松山 和也	
授業時期 ： 前 期・後 期	**年 次** ： 1年	**単 位 数** ： 5

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

ワックスの取扱いや金属の加工方法を理解し、
口腔内に調和した歯冠補綴装置を製作できるようになるために、
歯冠修復技工学に関する基本的な技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯冠修復法の種類、および技工操作について説明できる
2. クラウンおよびブリッジの製作順序について説明できる
3. クラウンおよびブリッジ製作に関する基本的操作を実施できる
4. 歯列の状態を考慮して、クラウンおよびブリッジの形態を決定できる
5. クラウンおよびブリッジの製作に使用する歯科材料や器械を正しく安全に操作できる
6. 技工作業中の安全性に配慮できる
7. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1～2	実 習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	町 博之
3～17	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	町 博之
18～22	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	町 博之
23～32	実 習	1	ワックスアップ	金属冠のワックスアップ	町 博之
33～40	実 習	1	埋 没・鋳 造	埋没・鋳造	町 博之
41～44	実 習	1	内面調整	内面調整	町 博之
45～48	実 習	1	コンタクト調整	コンタクト調整	町 博之
47～50	実 習	1	研 磨	研 磨	町 博之
1	実 習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	松山 和也
2～6	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	松山 和也
7～8	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	松山 和也
9～19	実 習	1	ワックスアップ	ブリッジのワックスアップ	松山 和也
20	実 習	1	開 窓	レジン充填のための開窓	松山 和也
21～22	実 習	1	埋 没・鋳 造	埋没・鋳造	松山 和也
23	実 習	1	内面調整	内面調整	松山 和也
24～26	実 習	1	鑞付け	鑞付け法	松山 和也
27	実 習	1	コンタクト調整	コンタクト調整	松山 和也
28～33	実 習	1	研 磨	金属部の研磨	松山 和也
34～35	実 習	1	レジン充填	レジン前装ポンティック	松山 和也
36～38	実 習	1	研 磨	レジン部の形態修正および研磨	松山 和也
1	実 習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	松山 和也
2	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	松山 和也
3	実 習	1	咬合器装着	自由運動咬合器への装着	松山 和也
4～6	実 習	1	ワックスアップ	インレーのワックスアップ	松山 和也
7～10	実 習	1	埋没・鋳造	埋没および鋳造	松山 和也
11～12	実 習	1	研 磨	研磨	松山 和也

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1・2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	3～5・7	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	6・7	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学、歯科技工実習トレーニング 歯冠修復技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：審美歯冠修復技工学基礎実習	**授業内容** ： レジン前装冠実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 松山 和也	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

歯冠用レジンの特徴を理解し、
残存歯と調和する形状および色彩を再現できるようになるために、
レジン前装冠の製作に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯冠用レジンの特徴を説明できる
2. 生体に対するレジン前装冠の審美的要件を説明できる
3. レジン前装冠の製作順序について説明できる
4. レジン前装冠製作に関する基本的操作を実施できる
5. 残存歯の状態を考慮して、レジン前装冠の形態を決定できる
6. レジン前装冠製作に使用する歯科材料や器械を正しく安全に操作できる
7. 技工作業中の安全性に配慮できる
8. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	実　習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	松山 和也
2～3	実　習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	松山 和也
4	実　習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	松山 和也
5～8	実　習	1	ワックスアップ	レジン前装冠のワックスアップおよび開窓	松山 和也
9～11	実　習	1	埋没・鋳造	埋没	松山 和也
12～13	実　習	1	調整・研磨	調整および金属部の研磨	松山 和也
14～16	実　習	1	レジン前装	レジン前装	松山 和也
17～20	実　習	1	研　磨	レジン部の形態修正および研磨	松山 和也

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1・2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	3～5・7	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	6～8	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学、歯科技工実習トレーニング 歯冠修復技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：審美歯冠修復技工学基礎実習	**授業内容** ： 陶材焼付金属冠基礎実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 小八木　圭以子	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室

授業の目的および概要

歯科用ポーセレンの特徴を理解し、
残存歯と調和する形状および色彩を再現できるようになるために、
陶材焼付金属冠の製作に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯科用ポーセレンの特徴を説明できる
2. 生体に対する陶材焼付鋳造冠の審美的要件を説明できる
3. 陶材焼付金属冠の製作順序について説明できる
4. 陶材焼付金属冠製作に関する基本的操作を実施できる
5. 残存歯の状態を考慮して、陶材焼付金属冠の形態を決定できる
6. 陶材焼付金属冠製作に使用する歯科材料や器械を正しく安全に操作できる
7. 技工作業中の安全性に配慮できる
8. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	実　習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	小八木　圭以子
2～3	実　習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	小八木　圭以子
4～6	実　習	1	ワックスアップ	陶材焼付金属冠のワックスアップおよび開窓	小八木　圭以子
7～8	実　習	1	埋没・鋳造	埋没	小八木　圭以子
9～10	実　習	1	調整・研磨	調整および金属部の研磨	小八木　圭以子
11～19	実　習	1	築盛・形態修正	陶材築盛および形態修正	小八木　圭以子
20	実　習	1	研　磨	金属部の研磨	小八木　圭以子

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	4・5・8	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	6～8	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学、歯科技工実習トレーニング 歯冠修復技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	授業科目名 ：審美歯冠修復技工学応用実習	授業内容 ： 陶材焼付金属冠応用実習
授業方法 ： 実 習	担当教員 ： 町 博之	
授業時期 ： 前 期・後 期	年 次 ： 2年	単 位 数 ： 2

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

マージン部の材料の違いによる生体への影響を理解し、
ポーセレンでマージン部を適合させることができるようになるために、
マージンポーセレンを応用した陶材焼付金属冠の製作に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. ポーセレンマージンの特徴を説明できる
2. 生体に対するマージンポーセレンを応用した陶材焼付金属冠の審美的要件を説明できる
3. マージンポーセレンを応用した陶材焼付金属冠の製作順序について説明できる
4. マージンポーセレンを応用した陶材焼付金属冠製作に関する基本的操作を実施できる
5. 残存歯の状態を考慮して、陶材焼付金属冠の形態を決定できる
6. 技工作業中の安全性に配慮できる
7. 模型の取扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	実 習	1	石膏模型製作	石膏模型の製作	町 博之
2～4	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	町 博之
5～7	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	町 博之
8～19	実 習	1	ワックスアップ	陶材焼付金属冠のワックスアップおよび開窓	町 博之
20～24	実 習	1	埋没・鋳造	埋没	町 博之
25～28	実 習	1	調整・研磨	調整および金属部の研磨	町 博之
29～37	実 習	1	築盛・形態修正	陶材築盛および形態修正	町 博之
38～39	実 習	1	修 整	マージン部の修整	町 博之
40	実 習	1	研 磨	金属部の研磨	町 博之

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1～3	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	4・5	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	6・7	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学、歯科技工実習トレーニング 歯冠修復技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：小児歯科技工学	**授業内容** ： 小児歯科技工学
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 大継　將寿、秋山　茂久	
授業時期 ： 前　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯学研究科または歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第一講義室・第二講義室

授業の目的および概要

小児期の顎口腔の発育や形態の特徴を理解し、
スペシャルニーズのある人を含め必要な歯科技工を実践できるようになるために、
小児歯科技工学に関する知識および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 小児期の顎口腔の発育や形態の特徴を説明できる
2. 障害の種類とその特徴を説明できる
3. 乳歯や幼若永久歯の歯冠修復の種類を列挙できる
4. 咬合誘導装置の種類と構成要素を理解し、製作法を説明できる
5. スペシャルニーズのある人への補綴物製作に関する留意点を説明できる
6. スペシャルニーズのある人の歯科治療に必要な技工物を列挙できる
7. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	概　説	小児歯科における特徴	大継　將寿
2～4	講　義	1	成長発育	顎、顔面、歯および歯列の成長発育	大継　將寿
5	講　義	1	歯冠修復	乳歯における歯冠修復	大継　將寿
6～8	講　義	1	咬合誘導装置	咬合誘導装置	大継　將寿
9	講　義	1	保隙装置	保隙装置	大継　將寿
10	講　義	1	口腔習癖除去装置	口腔習癖除去装置	大継　將寿
11	講　義	2	障がい者歯科	障がいの種類および特徴	秋山　茂久
12	講　義	2	スペシャルニーズ	スペシャルニーズのある人への対応	秋山　茂久

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1・3・4	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	2・5・6	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
3	7	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 小児歯科技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：小児歯科技工学実習	**授業内容** ： 小児歯科技工学実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 嶋本　佳代子、森川　千夏、鶴田　康介	
授業時期 ： 前　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

小児期の顎口腔の発育や形態の特徴を理解し、
健全な永久歯列へ導く装置が製作できるようになるために、
小児歯科技工学に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 乳歯や幼若永久歯の歯冠修復の種類を列挙できる
2. 咬合誘導装置の種類と構成要素を理解し、製作法を説明できる
3. クラウンループ保隙装置の製作に関する基本的操作を実施できる
4. 保定装置の製作に関する基本的操作を実施できる
5. 実習中の安全衛生に配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	実　習	1	乳歯冠の適合	石膏模型へ乳歯冠の調整	鶴田　康介
2	実　習	1	作業用副模型製作	乳歯冠を適合させ、辺縁を研磨後印象採得、模型製作	鶴田　康介
3～5	実　習	1	屈　曲	ループの設計後屈曲、鑞付け	鶴田　康介
6	実　習	1	研　磨	研磨	鶴田　康介
7	実　習	2	石膏模型製作	石膏模型の製作および調整	森川　千夏
8～9	実　習	2	模型の準備	バンド冠の挿入およびチューブの鑞付け	森川　千夏
10～12	実　習	2	屈　曲	リンガルアーチの屈曲	森川　千夏
13	実　習	2	研　磨	リンガルアーチと脚部の鑞付け、研磨	森川　千夏
14	実　習	2	石膏模型製作	石膏模型の製作および調整	鶴田　康介
15～16	実　習	2	唇側線屈曲	唇側線の屈曲	鶴田　康介
17～18	実　習	2	クラスプ屈曲	アダムスクラスプの屈曲	鶴田　康介
19	実　習	2	床の作成	レジン床の重合	鶴田　康介
20	実　習	2	研　磨	床部の形態修整および研磨	鶴田　康介

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	4	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	5	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 小児歯科技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：矯正歯科技工学	**授業内容** ： 矯正歯科技工学
授業方法 ： 講　義	**担当教員** ： 岡　綾香	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第一講義室

授業の目的および概要

不正咬合患者の頭蓋顎顔面の特徴を理解し、
正常な顎口腔の機能と審美を得る装置が製作できるようになるために、
矯正歯科技工学に関する知識および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 正常咬合の種類と不正咬合の分類を説明できる
2. 矯正用口腔模型の種類、特徴および製作上の注意点を説明できる
3. 矯正装置と保定装置の必要条件、分類を説明できる
4. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	概　説	矯正歯科における特徴	岡　綾香
2～4	講　義	1	咬合異常	正常咬合、咬合異常およびアングルの不正咬合の分類	岡　綾香
5～6	講　義	1	矯正治療	矯正歯科治療と歯科技工の関わり	岡　綾香
7～9	講　義	1	矯正装置	静的矯正装置、リテーナー	岡　綾香
10	講　義	1	矯正歯科技工	矯正歯科技工における器具、器械および手技	岡　綾香

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	4	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学、、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：矯正歯科技工学実習	**授業内容** ： 矯正歯科技工学実習
授業方法 ： 実　習	**担当教員** ： 森川　千夏、鶴田　康介	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

不正咬合患者の頭蓋顎顔面の特徴を理解し、
正常な顎口腔の機能と審美を得る装置が製作できるようになるために、
矯正歯科技工学に関する技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 矯正歯科技工で用いる器具・器械と材料の種類を列挙し、その用途を説明できる
2. 矯正用口腔模型の種類、特徴および製作上の注意点を説明できる
3. 矯正装置と保定装置の必要条件と分類を理解し、製作に応用できる
4. 矯正歯科技工における基本的手技を操作できる
5. 矯正用口腔模型と装置の製作に関する基本的操作を実施できる
6. 模型の取り扱いに配慮できる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～4	実　習	1	平面屈曲	0.9mm矯正線の平面的屈曲	鶴田　康介
5～12	実　習	1	平行模型	平行模型の製作	森川　千夏
13～16	実　習	2	クオドヘリクス	クオドヘリクスの製作	鶴田　康介
17～20	実　習	2	スプリングリテーナー	スプリングリテーナーの製作	鶴田　康介

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1・2	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	3～5	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	6	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	授業科目名 ：歯科技工包括臨床実習	授業内容 ： 歯科技工包括臨床実習
授業方法 ： 実 習	担当教員 ： 小八木 圭以子、町 博之、山田 朋美、若林 一道、高阪 貴之、伊藤 慎将、大継 將寿	
授業時期 ： 前 期・後 期	年 次 ： 2年	単 位 数 ： 13

実務経験

歯科技工士の勤務経験及び本校専任講師の教育経験、または、歯学研究科・歯学部附属病院での歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第二実習室

授業の目的および概要

口腔内や補綴装置に関する臨床に即した知識を理解するとともに、応用力を身に付けることで
患者に対して質の高い補綴装置を提供できる歯科技工士となるために、
臨床歯科技工に関する知識、技術、および医療人としてふさわしい態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 講義や基礎実習で培った知識を、臨床の補綴装置の製作に応用できる
2. チェックバイトと上下歯列模型から咬合関係を判断できる
3. 歯科技工指示書や口腔内模型の状態を考慮して、補綴装置の形態を決定できる
4. マイクロスコープを用いて精密な技工操作を実施できる
5. 模型の取扱いに配慮できる
6. 不明点は担当教官や歯科医師に相談できる
7. 製作期日に遅れないように配慮できる
8. 実習中の安全衛生に配慮できる
9. 歯科医療現場を体験し、臨床に携わることの責任感を感じることができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1～18	実 習	2	臨床的歯科技工実習	使用済みの臨床模型による歯冠修復装置の製作	小八木 圭以子
19～82	実 習	2	臨床歯科技工実習Ⅰ	附属病院の臨床模型による歯冠系技工装置の製作	小八木 圭以子
83～133	実 習	2	臨床歯科技工実習Ⅱ	附属病院の臨床模型による有床系技工装置の製作	町 博之
134	見 学	2	診療見学	保存科での見学	山田 朋美
135	見 学	2	診療見学	口腔補綴科での見学	若林 一道
136	見 学	2	診療見学	咀嚼補綴科での見学	高阪 貴之
137	見 学	2	診療見学	矯正科での見学	伊藤 慎将
138	見 学	2	診療見学	小児歯科での見学	大継 將寿

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1～3	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	4～9	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録
3	4～97	総括的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録
4	1～7	総括的評価	歯式、技能、態度・習慣	実習中	実地試験
5	1・2・3・9	総括的評価	技能、態度・習慣	実習終了後	レポート

教科書・教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：顎顔面再建工学	**授業内容** ： 顎顔面再建工学
授業方法 ： 講　義・実　習	**担当教員** ： 嶋本　佳代子、森下　裕司	
授業時期 ： 前　期・後　期	**年　次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校での専任講師または非常勤講師としての教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室・第二実習室

授業の目的および概要

顔貌の欠損修復について理解し、
歯科技工で修復について考えることができるようになるために、
顎顔面補綴の重要性、製作に関する知識を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 顔貌を欠損状態した患者の現状を説明する
2. エピテーゼの分類について説明する
3. エピテーゼ製作における問題点を説明する
4. エピテーゼの製作手順を列挙する
5. 歯科における形態美、機能美および色彩美を説明する
6. 顔面の解剖形態と色彩の特長を理解し、機能的造形や色彩の再現に応用する
7. 眼窩エピテーゼ製作に関する基本的操作を実施する
8. 協同実習が円滑に行えるよう配慮する

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1	講　義	1	概　説	プロテーゼの概説	嶋本　佳代子
2～3	実　習	1	指の印象	指のワックス原型を製作する	嶋本　佳代子
4～6	実　習	1	眼球製作	眼球を製作する	嶋本　佳代子
7～9	実　習	1	埋没・加硫	シリコンの加硫	嶋本　佳代子
10～11	実　習	1	研磨	眼球の研磨	嶋本　佳代子
12	実　習	1	調　整	シリコンの外部着色	嶋本　佳代子
13～16	講　義	2	概　論	顎顔面補綴技工学	森下　裕司

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～5	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	6・7	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	8	形成的評価	技能、態度・習慣	実習中	観察記録

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：ｵｰﾗﾙｱﾌﾟﾗｲｱﾝｽ歯科技工学	**授業内容** ： ｵｰﾗﾙｱﾌﾟﾗｲｱﾝｽ歯科技工学
授業方法 ： 講　義･実　習	**担当教員** ： 町　博之、権田　知也	
授業時期 ： 前　期･後　期	**年　次** ： 2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士の実務経験及び本校専任講師の教育経験、または、歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第二講義室･第二実習室

授業の目的および概要

顎関節症、スポーツ外傷、睡眠障害等の予防ならびに治療に対しオーラルアプライアンスを応用するため、
各種のオーラルアプライアンスの形態、特徴、および製作器機を理解し、オーラルアプライアンスに関する知識、技能を習得
また装置に付与する咬合様式の違いについても理解する。

学習目標（SBOs）

1. オーラルアプライアンスの種類および有効性について説明できる
2. スポーツにおける口腔領域の外傷の特徴について説明できる
3. マウスガードの目的、種類および製作手順について説明できる
4. マウスガード製作に関する基本操作を実施できる
5. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	2	ｵｰﾗﾙｱﾌﾟﾗｲｱﾝｽ	オーラルアプライアンスの概論	町　博之
3	講　義	2	スポーツ歯学	スポーツ歯学の概論	権田　知也
4～6	実　習	2	作業用模型製作	MG製作のための模型製作	町　博之
7	実　習	2	シート成形	軟質シートの軟化圧接	町　博之
8～10	実　習	2	MG製作	シート切出し，形態修整，咬合調整	町　博之
10～11	実　習	2	模型の調整	睡眠無呼吸症用装置のための模型製作	町　博之
12	実　習	2	設　計	サベイングおよび設計	町　博之
13～14	実　習	2	シート成形	硬質シートの軟化圧接	町　博之
15～16	実　習	2	シート調整	シート切出し，形態修整	町　博之
17	実　習	2	装置の固定･調整	前方位での装置の固定	町　博之

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～3	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
2	4	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	5	総括的評価	態度･習慣	講義終了後	感想文

教科書･教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習、配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：デジタル歯科技工学	**授業内容** ： CAD/CAM歯科基礎工学
授業方法 ： 講　義・実　習	**担当教員** ： 野﨑　一徳	
授業時期 ： 後　期	**年　次** ： 1年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験を有する。

主な授業場所

第一講義室

授業の目的および概要

デジタルについての原理原則を理解し、
デジタル技工操作を適切に行うことができるようになるために、
歯科用CAD/CAMシステムの基礎知識を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 三次元計測の仕組みを説明できる
2. 形状モデルの表現方法を理解し、三次元形状モデルを説明できる
3. CAMの種類と加工法を理解し、CADシステムとの互換性を説明できる
4. 歯科用CAD/CAMシステムの特性を説明できる
5. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項　目	授業内容	担当教員
1～2	講　義	1	概　要	情報処理、CAD/CAMシステムの歴史	野﨑　一徳
3～4	講　義	1	スキャニング方法	接触法、三角形側方、同軸法	野﨑　一徳
5～6	講　義	1	スキャニング演習	スキャニングの操作方法	野﨑　一徳
7～8	講　義	1	CAD/CAMシステム	切削法、築層造形法	野﨑　一徳
9～10	講　義	1	歯科への応用	歯科におけるCAD/CAMシステムの理論および操作方法	野﨑　一徳

評価方法

	対応SBOs	目　的	領　域	期　間	方　法
1	1～4	形成的評価	知識	講義中	口頭試問
2	1～4	総括的評価	知識	講義終了後	筆答試験
3	5	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	**授業科目名** ：デジタル歯科技工学実習	**授業内容** ： デジタル歯科技工学実習
授業方法 ： 実 習	**担当教員** ： 嶋本 佳代子 、小八木 圭以子	
授業時期 ： 後 期	**年 次** ： 1、2年	**単 位 数** ： 1

実務経験

歯科技工士としての勤務経験と、本校専任講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第一実習室・第二実習室

授業の目的および概要

歯科用CAD/CAMシステムの基本操作を理解し
デジタル技工操作を適切に行うことができるようになるために、
歯科用CAD/CAMシステムによる補綴装置製作に関する知識、技能および態度・習慣を修得する。

学習目標（SBOs）

1. 歯科用CAD/CAMシステムの操作方法を説明できる
2. 歯科用CADソフトを操作しバーチャルで設計することができる
3. 設計によりミリングされたクラウンをアナログ作業により加工することができる
4. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	実 習	1	作業用模型製作	作業用模型の製作	嶋本 佳代子
2	実 習	1	咬合器装着	平均値咬合器への装着	嶋本 佳代子
4	実 習	1	使用説明	CAD/CAM装置の使用説明	（株）松風
5～6	実 習	1	CAD操作	小臼歯CAD/CAM冠製作	（株）松風
7～8	実 習	1	調 整	支台歯に適合させる	嶋本 佳代子
9～10	実 習	1	研 磨	レジン冠の研磨	嶋本 佳代子
11	実 習	2	作業用模型製作	作業用模型の製作	小八木 圭以子
12	実 習	2	咬合器装着	平均値咬合器への装着	小八木 圭以子
13～14	実 習	2	CAD操作	ジルコニアフレームのCAD/CAM操作	小八木 圭以子
15	実 習	2	調 整	支台歯に適合させる	小八木 圭以子
16～10	実 習	2	築盛・焼成	ｼﾞﾙｺﾆｱ用ﾎﾟｰｾﾚﾝの築盛、形態修整、グレージング	小八木 圭以子

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1	形成的評価	知識	実習中	口頭試験
2	2・3	総括的評価	技能	実習中	作品評価
3	4	総括的評価	態度	実習中	観察記録

教科書・教材

配付プリント

注意事項

教育内容 ： 専門分野	授業科目名 ：インプラント歯科技工学	授業内容 ： インプラント歯科技工学
授業方法 ： 講 義	担当教員 ： 中野 環、島本 博彰、櫻井 靖之	
授業時期 ： 前 期	年 次 ： 2年	単 位 数 ： 1

実務経験

歯学研究科・歯学部附属病院の本務教員としての教育経験と歯科医師としての臨床経験、または、歯科技工士の実務経験及び本校非常勤講師の教育経験を有する。

主な授業場所

第二講義室

授業の目的および概要

欠損補綴の選択肢の一つであるインプラント治療の特徴を理解し、
歯科医師との共通認識を持つことができるようになるために、
インプラント治療に関する基礎知識を修得する。

学習目標（SBOs）

1. インプラント治療の意義と目的について説明できる
2. インプラントの種類と天然歯との違いを説明できる
3. インプラント治療の流れ、メリット・デメリットを説明できる
4. 画像診断の種類について説明できる
5. X線およびCT画像を評価できる
6. インプラント埋入時の設計の重要性を説明できる
7. インプラントで使用する材料の特性について説明できる
8. 教示内容に対する関心を示すことができる

授業計画

回	授業形態	学 年	項 目	授業内容	担当教員
1	講 義	2	概 論	インプラント治療の意義と目的	中野 環
2	講 義	2	画像診断	画像診断法の種類、X線およびCT画像の知見	島本 博彰
3～4	講 義	2	歯周組織	歯周組織とインプラント体との調和	櫻井 靖之
5～6	講 義	2	咬合状態	インプラント技工における咬合付与	櫻井 靖之
7～8	講 義	2	適合精度	インプラント技工における精度	櫻井 靖之
9～10	講 義	2	インプラントの種類	現状のインプラントの種類と特徴	櫻井 靖之

評価方法

	対応SBOs	目 的	領 域	期 間	方 法
1	1～7	総括的評価	知識	講義終了後	レポート
2	8	総括的評価	態度・習慣	講義終了後	感想文

教科書・教材

配付プリント

注意事項